

幼児教育現場に役立つ表現活動のための教材紹介

塚田 右子

Original Learning Materials for Self-expression Activities in Nursery and Kindergarten Education

TSUKADA, Yuko

キーワード： 手作り教材 自己紹介 エプロンシアター 保育 創作

はじめに

保育者は、子どもたちや保護者のみならず、地域社会や諸機関の人など、多くの人間と関わりを持つ職業である。そのため、十分なコミュニケーション能力を身につけている必要があることは言うまでもない。本校では、こうした能力を高めるために、授業内や学校生活においてもきめ細やかな指導をおこなうよう心掛けている。

「表現」の授業内においては、子どもたちと保育者とのコミュニケーションを円滑に行う表現活動のための創作教材を提示している。コミュニケーションにおいては、まず、出会いのあいさつ、そして名前を知ってもらう事が大きな意味を持つ。従って、この「出会い」というところに特に注目し、自己紹介をテーマとした教材に焦点をあてている。

「表現」は1年生の科目であり、著者自身学生との初めての出会いの場である。入学した学生も夏にはボランティア実習、11月には幼稚園実習、2月の保育・施設実習があり、実習先でたくさん子どもたちとの出会いがある。幼稚園実習・保育実習では必ず自己紹介があり、学生たちが自分をアピール、表現する場となる。この自己紹介活動をとおして、表現活動にとって重要な言葉や歌、動作で表現する力を身につけたり、またイメージをふくらませたりするためのトレーニングの機会にすることが可能であると考えられる。筆者も授業の中で自己紹介をすることにより、学生とのコミュニケーションが深まり、また筆者の自己紹介が学生のアイデアにつながるものなればと願い、1回目の授業から様々な技法を使い、身近にある材料を使って制作をして自身の自己紹介を学生にしている。その中で表現するおもしろさ、つくるおもしろさを感じながら、自分で考える力、イメージを膨らませていくことが育つことをねらいとしている。以下に、その紹介を行うこととする。

実践事例の紹介

【自己紹介エプロンシアター】

材料 市販されているエプロン・フェルト・羊毛 など

♪不思議なポケット♪の替え歌を歌いながら自己紹介をしていく。



♪ポケットのなかにはなーにがはいつているかな？ポケットをたたくとなーにがでてくるかな？♪



「でてきた、でてきた、なにがでてきたかな？」

「これは つ ここへつけます」



名前のパーツが完成したら、また歌を歌いながら、自分の好きなものを出しつける

「ふしぎなポケット」の替え歌で「ポケットのなかにはなーにがはいつているかな？ポケットをたたくなーにがでてくるかな？」とポケットをたたきながら歌い、ポケットの中から名前前のパーツ、自分の好きなものパーツをひとつひとつ出しエプロンシアターを楽しむ。

学生は最初は何をするのだろうと興味深くみており、ポケットから何か出てくるかわくわくしていた。同じ動作を繰り返すので何回か歌っていると「ふしぎなポケット」の替え歌と一緒に口ずさみながら参加していた。

エプロンは市販のものであるが、最初にフェルトでチューリップを作りエプロンに縫いつけておいた。チューリップもポケットになっており、ポケットの中にハンカチ、あやとり、人形など、活動に必要なものを入れておき、導入の一つとして使うこともできると考える。自己紹介用だけでなく、ふしぎなエプロンとしていろいろな活用ができると思う。

【自己紹介手作り絵本】

材料 ケント紙・折り紙・モール

♪たまごたまご♪の手遊びの替え歌で絵本をめくる



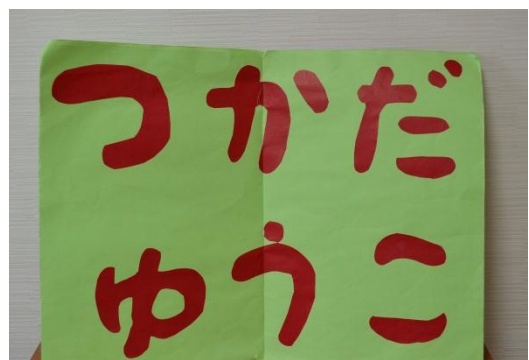
♪たーまごたまごが



パチンとわれて ♪



♪なかからわたしがこんにちは
まーかわいいこんにちは♪



♪わたしのおなまえつ〜かだゆうこ
み〜んなおなまえおぼえてね
なかよくしてね、よろしくね♪



♪みんなとっしょにいーぱいあそぼ
おりがみ、なわとび、みずあそび
たくさんたくさんあそんでね♪



♪わたしのこころはどきどきわくわく
みんなとなかよくなりたいな、
なかよくしてね、よろしくね♪

1枚の用紙に切り込みを入れ、折ると簡単な冊子ができる方法を用いて自己紹介絵本を作成。絵本の中に簡単な仕掛けや折り紙、立体的な要素を取り入れ、また実習の時に子どもたちと一緒に楽しみたいことなども絵本の中に入れ自己PRができるような作品にした。この絵本は「たまごたまご」の手遊び歌を替え歌にし、歌うことでストーリーを持たせた。

【もこもこ絵本】

材料 フェルト・不織布・Pペーパー

簡単なお話をしながら絵本を進めていく



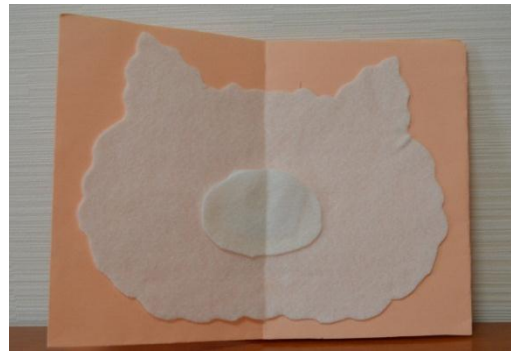
「もこもこ、もこもこくもが
うごいているよ」



「もこもこ、もこもこ、なんのかたち
かな？」



「あっうさぎさん、うさぎさんうさぎさん
こんにちは」



「もこもこ、もこもこ、こんどは
だれかな？」



「あっブタさんだ、ぶたさんこんにちは」



「もこもこ、もこもこ、こんどは
なにかな？」



「あっ、くものなかからひらがながでてきたよ
つかだゆうこ だってだれだろう？」



「みなさんこんにちは わたしの
おなまえです。みなさんよろしくね」

パネルシアターを作成した時に使用した不織布、Pペーパーの素材の良さを生かそうと考え絵本を作成した。パネルシアターの仕掛けと同じように、この絵本の中にもいくつかのポケットを作り、その中にPペーパーでつくったパーツが入っている。

フェルト、不織布の柔らかさ、手に触れた時の感触や肌触りなど幼児のみならず、乳児が肌に触れた時のぬくもり感、やわらかさなど温かさが伝わればと願った。またPペ

ーパーのくつつく面白さ、はがす楽しさもあり、膝の上で抱っこして読みながら、子ども自身がパーツをつける、はがすことで子どもとのコミュニケーションが深めることもできると考える。Pペーパーの絵を変えることでいろいろなお話に変化することができる楽しさもある。

【おおきくおおきくなーれ】

材料 紙コップ・傘袋・毛糸・おりがみ



「ジュースをのんでごくごく
パワーぜんかい！」



「おおきくいきをすって、
おおきくおおきくなーれ」



「こんなにおおきく
なっちゃった」

紙コップの中に傘袋を隠しておき、息を吹き込むことで大きくなっていく。どんどん大きくなっていくことが学生の目にはとても楽しかったようで、インパクトがあったようだ。紙コップ、傘袋という身近な素材だが、傘袋を市販されているビニール袋に変えたりするとまた違ったあそびにもなる。

おわりに

今回は今まで自己紹介用として作成した中からいくつかを紹介した。制作をする際に気をつけていることは、手づくりの良さが伝わるように、また学生が制作をした時に、つくることが大変と思わないような、できるだけ簡単に制作ができ、身近にある材料をつかいながら、制作することが楽しく感じられるように心がけている。自己紹介用として制作をしても、自己紹介だけに使うのではなく、少しあそびを加えることで、つくったものであそぶ楽しさも味わう事ができるよう、あそびが発展していくことも願っている。

学生も「表現」の授業の中で紹介した作品をアレンジして制作し、実習の際、実際に自己紹介活動をし、「子どもたちが喜んでくれた」「面白いとってくれたよ」「なまえを覚えてくれたよ」と報告をしてくれた。今の環境の中では、かわいらしいキャラクターもの、グッズなど身近にたくさんあり、手軽にパペット、指人形などが既成品でも間に合うと思うが、やはり身近にある材料を使ってつくる、つくったもので表現する、子どもとたちと触れ合う、コミュニケーションを深めるということを大切にしていきたいと思う。